

# 天塩町地域おこし協力隊 2019年7月～9月活動報告

## 地域プロデューサー 久保 綾香

7月～9月は大きく分けて以下の4つの活動を行った。

1. ダンス指導
2. イベント等の実施・実施支援
3. 国際交流の機会の創出
4. イベント・セミナー・研修等を通じた情報収集
5. その他

各項目の具体的な内容については以下の通り。

### 1. ダンス指導

7月から9月にかけて、毎月1回実施しているヒップホップダンス教室や、新しく立ち上げたストリートダンスサークル、また天塩高校の授業にてダンス指導を行った。また、サークルのメンバーで夏祭り等のイベントにダンス出演した。8月には初めて町外（豊富町）にてダンス教室を開催した。

#### (1) ヒップホップダンス教室の実施

実施したダンス教室は以下の通り。

- キッズクラス（7/25, 8/22, 9/25）
- 入門クラス（7/25, 8/22, 9/25）



7月25日実施のキッズクラス



8月22日実施の入門クラス

#### (2) ストリートダンスサークルでの指導

天塩町の夏祭り（天塩しじみ祭り、天塩川港まつり）や「第67回留萌管内女性大会・第62回天塩町内女性の集い」でのダンスショー出演に向けて複数のグループを作り、振り付け・練習指導を行った。ショーをご覧になった方からは大変好評を頂いた。今後もサークルでの活動を続け、子どもや若い世代の表現や学びの場をつくりつつ、町内外のイベントなどに積極的に参加し、天塩町や留萌地域の活性化に繋げていければと考えている。



天塩しじみ祭りでのダンスショー出演者の集合写真



天塩しじみ祭りでのダンスショー出演の様子



天塩川港まつりでのダンスショー出演者の集合写真



天塩川港まつりでのダンスショー出演の様子

### (3) 天塩高校での授業におけるダンス指導

天塩高校の選択授業「生涯スポーツ」において、ヒップホップ・創作ダンスの授業を3回分担当した。今回の授業では、ヒップホップダンスの基礎を教えつつ、受験勉強中の生徒さんが発散できるような大きく楽しく動けるような振付でダンスレッスンをを行った。

## 2. イベント等の実施・実施支援

天塩町内外で実施された以下のイベント等の実施・実施支援を行った。

- 天塩しじみ祭り@鏡沼海浜公園（7/7）【実施支援】
- かわまちづくり協議会主催 昔の遊び体験フェスタ（七夕飾りづくり）@天塩川歴史資料館 特別展示室（7/20）【実施支援】
- かわまちづくり協議会主催 昔の遊び体験フェスタ（単箱づくり）@天塩川歴史資料館 特別展示室（8/9）【実施支援】
- 筑波大学×天塩町 高大連携ワークショップ（天塩高校生）@てしお温泉夕映 2F コワーキングルーム（8/24, 25）【実施支援】
- きた北海道協力隊ネットワーク主催 地域おこし協力隊研修会@天塩町内、天塩中学校（8/30～9/1）【実施】
- てしお味覚祭り@鏡沼海浜公園（9/8）【実施支援】
- 天塩町フェスタ@てしお温泉夕映 1F 宴会場・2F コワーキングスペース（9/23）【実施支援】

- かわまちづくり協議会主催 昔の遊び体験フェスタ（天塩川産粘土を使用した粘土工作）  
@天塩川歴史資料館 特別展示室（9/28）【実施支援】

8月30日から9月1日までの2泊3日で実施した、きた北海道協力隊ネットワーク（KKN）主催の地域おこし協力隊研修会については、久保がKKNの事務局に所属していたことから、天塩町での研修会の開催を提案し、天塩町が毎年実施している筑波大学との高大連携事業とコラボレーションし開催することとなった。

KKN研修会は、北海道、特に道北地域の各市町村で活動する地域おこし協力隊向けの研修会で、現役の地域おこし協力隊や協力隊OB・OG、また自治体や民間企業等の職員が交流する機会を持つことで、互いの活動内容やそこでの経験、課題、自身の考え等を共有し、参加者各々の活動や任期終了後のキャリアをより良いものにするために定期的に開催されている研修会である。

今回のKKN研修会では、これまで天塩町と筑波大学（都市計測実験室）が連携し実施してきた「中（高）大連携」ワークショップに参加し、地元中学生や筑波大学生、役場職員とともに、天塩町を事例としたまちづくりについて検討した。

30日は、天塩町で活躍する生産者の方（宇野剛司氏）やまちづくりに取り組む方（計良徹氏）から話を伺いつつ、まちづくりへの活用が期待される場所（道の駅てしお、天塩川河川公園）を視察し、生産者の思いやこだわり、天塩町の現状や課題等について整理した。

31日から1日にかけては、協力隊は3つのテーマのグループに分かれ、「天塩町で自分たちがアクションを起こすとしたら？」をテーマに、協力隊の「ソトモノ」「ワカモノ」目線から、天塩町を事例としたまちづくりについて検討するワークショップが行われた。最終的に、ワークショップで作上げた企画を地元中学生や町民の方々にに向けて発表し、中学生や社会人・学生連合グループも含めて、魅力的な企画の投票が行われた。

ワークショップでは、中学生は、雑多なデータやアイデアを統合し新たな発想を生み出すためのKJ法を、協力隊はシリコンバレーの企業が事業の立ち上げや商品開発を行う際に用いる「デザイン思考」の手法を使ってまちづくりプランを検討した（各グループに筑波大学の学生がティーチングアシスタント（TA）として付き、デザイン思考の考え方についての指導やグループワークのファシリテーションを担当した）。

協力隊グループは、「水産業」、「交通」、「畜産業」の3つのグループに分かれてそれぞれ作業を行った。「水産業」グループは、発表タイトルを「何も持たない彼がすべてを手に入れたとき」と題し、IT・AI技術を活用した漁師の担い手不足解消のためのプランを提案した。「交通」グループは、「一ノ瀬アヤの憂鬱」と題し、東京・天塩間の交換ホームステイを通じた人材交流と地元の魅力を再発見するためのプランを提案。「畜産業」グループは、「天塩の食を通じた人材育成プロジェクト」と題し、子供向けの職業（酪農業）体験やドローンによる牧場見学チケット付きの羊肉販売システムなどを通じた、酪農や食への興味・関心の向



上を目指すプランを提案した。

今回のワークショップは地元中学生や関東圏の大学生、天塩町の役場職員等、さまざまな立場やバックグラウンドの人たちが一堂に会し、協力隊にとっては、普段中々接する機会のない中学生や大学生と時間を共にできたことはとても貴重な機会だった。こうしたメンバーで一つの目標に向かって協働したことは、これまで協力隊研修会やそれ以外の機会においても無い経験だったのではないかと考える。中学生の視点やアイデア、大学生のファシリテーション方法を学ぶことを通じて、自身のまちでの若者の巻き込み方、働きかけ方などを考えるきっかけになったのではないかと感じた。



KKN 主催地域おこし協力隊研修会 in 天塩町の様子  
(1) (9/1 まちづくりシンポジウム後の集合写真)



KKN 主催地域おこし協力隊研修会 in 天塩町の様子 (2) (8/30 事前勉強会)



KKN 主催地域おこし協力隊研修会 in 天塩町の様子  
(3) (8/31 ワークショップ)



KKN 主催地域おこし協力隊研修会 in 天塩町の様子 (4) (9/1 まちづくりシンポジウムでの発表の様子)

### 3. 国際交流の機会の創出

- アフリカオンライン交流会@てしお温泉夕映 2F コワーキングスペース (8/9)
- パースタディツアーに向けた実施準備

アフリカオンライン交流会は、久保が前職の業務でアフリカの国々に滞在した経験があったことから、アフリカや海外の子供たちと天塩町の子供たちが交流する機会を持てればと思い企画・実施に至った。今回交流を行ったのは、東アフリカの内陸に位置するブルンジという国の子供たちで、前職での同僚であるドゥサベ友香氏が代表を務める Burundi Japan Friendship との共同企画で開催した。こうした企画を通じて、多様な言語や文化、価値観などを学び、天塩町のグローバル化や町民の異文化への理解の促進に繋がればと考えて

いる。

交流会の所用時間は全部で1時間半とし、久保からのアフリカ・ブルンジについての説明を約20分、実際のオンラインビデオ通話での交流を約1時間行った。交流の内容としては、それぞれの国での挨拶の仕方や、歌・ダンス・遊び等の披露、食、生活等に関する情報交換、ほか参加者同士の質疑応答などを行った。主な参加対象は小学生・中学生としたが、一般の方も参加可能とした。

交流開始後、しばらくは互いに緊張した様子もあったが、それぞれとても積極的に質問を行い、楽しそうに交流を行っていた。ブルンジ側からは伝統的なダンスや歌の披露、天塩側から日本の遊び(けん玉)の紹介を行い、その後質疑応答などを行った。ブルンジ側からは「ブルンジに来てみたいですか?」「普段はどんな食べ物を食べていますか?」などの質問を受け、天塩側からは「時間によって挨拶の仕方は変わりますか?」「好きな季節は何ですか?」「行ってみたいところはありますか?」などの質問が挙がった。最後はお互いの国での「ありがとう」の言い方を聞き合い、「ありがとう!(ブルンジ側から)」「Murakoze!(ムラコゼ)(天塩側から)」の大合唱の中交流会が終了した。

自分にとって初めてのことや経験したことのないことは、一步踏み出すのにためらってしまうこともあるが、今回こうして勇気を出して参加してくれたり、自分の意志を持って行動している子供たちの姿を見て、大変感銘を受けるとともに、とても頼もしく感じた。今後もこうした取り組みを積極的に行っていきたいと考えている。



アフリカオンライン交流会での様子(1)(日本の遊びであるけん玉を披露)



アフリカオンライン交流会での様子(2)(質疑応答)

#### 4. イベント・セミナー・研修等を通じた情報収集

参加したイベントやセミナー、研修等は以下の通り。

- ウェットランドセミナー@テセウ湿原(7/11)
- 療育研修会@天塩町保健ふれあいセンター(7/19)
- 協力隊 Emi さんによる中国語セミナー(7/22, 9/9) @てしお温泉夕映 2F コワーキングセミナー
- かわまちづくり協議会主催 SNS 活用ワークショップへの参加@てしお温泉夕映 2F コ

ワーキングスペース (7/22)

- 苫前さかなツアー (7/29) @ 苫前町内
- 鏡沼フィールドワーク@鏡沼海浜公園 (9/22)
- かわまちづくり協議会主催歴史分科会@天塩川歴史資料館 特別展示室 (9/28)
- かわまちづくり協議会主催 SNS 活用ワークショップへの参加@天塩町役場 1F 会議室 (9/28)

SNS 活用ワークショップは、天塩町のまちづくりに SNS をどのように活用していくかを検討するために、かわまちづくり協議会の主催で開催されている。同ワークショップでは、天塩町の LINE スタンプの開発や、Instagram でのフォトコンテストの企画・開催、協力隊活動に興味を持つ方向けの情報 WEB ページの構築など、さまざまな内容を扱っている。一般の方も参加可能で、すでに何人かの町民の方にもご参加頂き意見を頂いている。ぜひ今後も町民の方々に気軽に参加して頂きたい。

株式会社コササルが企画・開催した「苫前さかなツアー」に参加し、一次生産者の体験ツアーの手法や新しい取り組みである「漁業改善プロジェクト (FIP)」について学んだ。ツアーでは苫前漁港での取り組みについて現場を回って学び、セリなどの様子も見る事ができた。地元漁師である小笠原氏が携わっている FIP について、小笠原氏が獲ったタコを解体・試食しながら、その取り組みについて学んだ。タコの解体・試食、発表は小笠原氏の仕事の作業場で行われた。今回のツアーには道内の遠方から来た方も参加されており、魚や漁師の仕事に興味を持つ小学生も参加していた。タコの解体や試食など、楽しめるコンテンツを含めることで、現代の子供たちが楽しく漁業や食について学ぶことができ、とても良い手法であると感じた。大人であっても、実際に漁業の現場を見たり、漁師ご本人から直接話を聞く機会はなかなか無いため、大人のための社会教育という面でもとても良いプログラムであると感じた。こうしたツアーを行うことで、子供や大人の社会教育、一次生産者の担い手不足解消、地域内交流やまちづくりに貢献できるのではないかと感じた。



苫前さかなツアーの様子 (1) (水ダコの説明と解体)



苫前さかなツアーの様子 (2) (小笠原氏の作業場で持続可能な漁業の取り組みに関する発表)



## 5. その他

- 道の駅レンタサイクル導入にかかるサイクリングモニタリングに参加@天塩町内 (7/2)
- カヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシーオーペツ 2019」に出場@天塩川 (7/14, 15)
- 野鳥調査 (天塩川を清流にする会) に参加@天塩町内 (7/20, 8/14)
- 「北海道移住への架け橋」の SNS ページでの情報発信
- いい川・いい川づくりワークショップでの発表に向けた準備



サイクリングモニタリングの様子



カヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシーオーペツ 2019」参加の様子

以上

別添資料 自身の活動に関するメディア掲載等

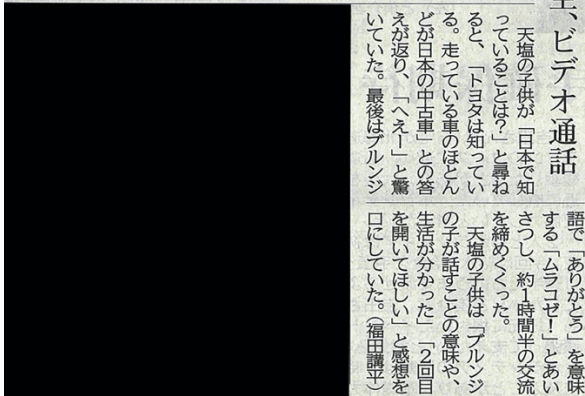


歌や踊り アフリカの子供と交流

【天塩】アフリカ中部のブルンジの子供とビデオ通話で交流する「はじめて！オンライン交流会」(町主催)が、7月10日(土)温泉水映で開かれ、町内の小中学生ら10人がブルンジの子供約60人と歌や踊り、遊びなどを通じて親交を深めた。

町地域おこし協力隊員の久保綾香さんの元同僚が現在、ブルンジに在住することが縁で、9日に初めて実施した。

大型スクリーンに映し出されたブルンジの子供は公用語のブルンジ語であいさつした後、歌とダンスをリズミカルに披露。天塩の子供は日本の伝統的な遊具として、けん玉を披露した。



2019年8月22日(木)北海道新聞朝刊(留萌・宗谷版)に掲載



北緯44度からダンス文化発信

天塩の愛好家がサークル  
協力隊員久保さんから22人

【天塩】町内のストリートダンス愛好家たちが、ダンスサークル「村N」(フオーティフォーティゲリ)を立ち上げた。

名称は天塩の緯度の北緯44度から付けた。メンバーは「天塩からダンス文化を発信したい」と意気込んでい

町地域おこし協力隊員の久保綾香さん(29)は、高校、大学時代のダンス経験を生かし、昨年6月から町教委の健康教室の一つとしてダンス教室を開いている。みんなでダンスを練習、披露する場所をつくらうと、受講者を中心に町内の園児、小中高生、社会人の男女22人が集まって今年6月にサークルをつくった。

代表は久保さんが務め、天塩に誕生したダンスサークル「村N」のメンバー

7月6日の練習しみまつりサークルとして初めて出演した。小学生の頃からダンスが趣味というメンバーの横溝美耶さん(16)は「練習に励んでい

塩高2年生は「教室でサークルがあればいいと思っていたので、すぐ入った。今(44north@gmail.com)問い合わせは電子メール(44north@gmail.com)後、顔を合わせたらうれしい」と練習に励んでいる。

(福田謙平)

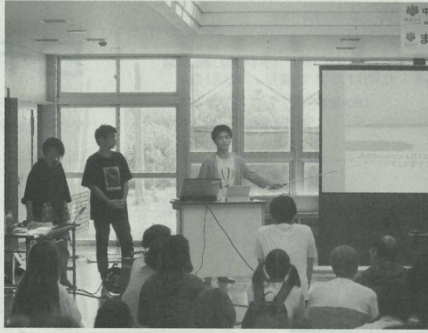
2019年8月24日(土)北海道新聞朝刊(留萌・宗谷版)に掲載



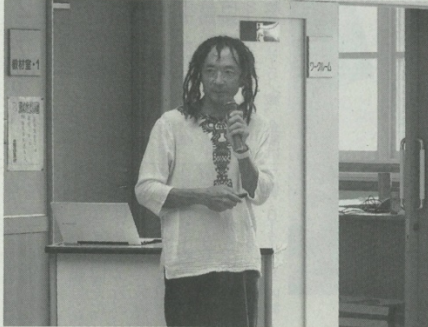
# 筑波大生らが活性化へ提案

## 天塩まじくり會津さんが特別講演

【天塩】町×筑波大生連 同プロジェクトは、平成開かれ、同大学の学生と天塩プロジェクト2019 28年12月に同大社会学部 塩中生徒をはじめ町職員「まじくり」シンポジウム 類の大澤義明教授が、町で 実証実験が行われているし協力隊など約80人が参 i n t e r n a t i o n a l が1日、 天塩中学校矢藤彦彦校長「天塩 椎内間相乗り交通 加。大生と町職員が各一 で開かれ、同大 茨城県 事業(サイドシエ)に興 中学生ら班、同協力隊 の学生や地域おこし協力隊 味を引かれたことなどを機 3班がそれぞれ地域活性化 らがマの活性化に向けた 案を発表した。 この日は、地域お 案を発表した。 中学生は、タビオカドリ こし協力隊研修を併せて



筑波大生らがマの活性化に向けたアイデアを発表したまじくりシンポジウムi n t e r n a t i o n a l



自身の経験を通して学び、挑戦することの大事さについて特別講演した天塩町出身の會津さん

ンクに地元産の牛乳を使っ や、ドローン(小型無人航 たなつくりを乗せた 空機)での牧場見学やケッ 天(「ビオカプロジェクト」 ト付きの羊肉販売のアイテ の道の駅販売と、タビオカ の原料であるキャッサバの 町内生産、町職員は酪農や 漁業など町の基幹産業を体 同業者とのスケジュール調 験できるツアーのほか鶴沼 整の手間といったデメリット に比べ、ドライブインのメ リットが交通費の折半だけ では弱いことから稼働率が 低いと課題を分析。町内 全てのサービスに利用でき 目的とした東京都と天塩町 との間での交歓留学「東京 ・天塩交換ホームステイ」

また町字オオナイ泉源 出身で、中学卒業後に理容 師を目指して札幌市へ上 京。イギリスへの留学、首 都圏での飲食ビジネスを展 開する傍ら大学院に進み、 昨年12月に65歳で横浜国立 大学大学院環境情報学府環 境イノベーションメサスシ ャン博士課程を修了した會 津律治さんが特別講演。 学び、挑戦することの 大事さをテーマに、自身 の半生を振り返りながら 40年近く学校で学び続け

題を見つけ解決へと向かう 楽しさがあり、通制であ れば学費の心配もない。私 も今さら大学へ行こうと すると聞かれて困ったと もあるが、80歳を過ぎて入 学し、101歳で活躍して いる学生もいる。学びに遅 いということはないと締 めくくった。(會田康一郎)

2019年9月4日(水)日刊留萌新聞に掲載